

平成29年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立田辺高等学校 学校長名： 中山 浩樹 印

目指す学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 文武両道を基本として、生徒一人一人の資質と能力の向上を図り、確かな学力と豊かな人間性を備えた生徒を育成する学校 合理的な思考、積極的な行動ができるとともに豊かな情操をもつ生徒
-------------------	--

本年度の重点目標	1 授業の充実を図り、学力の向上を目指す。
	2 キャリア教育の観点から生徒たちの将来を見据えた進路指導を充実させる。
	3 社会的ルール・校則の遵守を推し進める。
	4 生徒自治の観点から、生徒自ら各種行事に積極的に関わる態度を育成する。

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
ホームページ等により保護者に自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせる。

自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 23 日 現 在)		
重 点 目 標					年 度 評 価 (3 月 23 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	社会を生き抜く力の基礎となる思考力・判断力・表現力等を育成するための主体的な学びの構築について意識的に取り組んでいるが、まだ十分ではないことから、積極的にその場面や機会を増やし、指導の改善を図る。	授業時間を確保するとともに、具体的な課題解決目標を設けて、授業改善が図れたか。	出張等の場合は、教務白板を利用して可能な限り振り替えを行い、補充に努める。	例年 270 ～ 280 回ある課題数を 250 回以下とすることを目指す。(参考：H28 年度の総授業時間数は 24,424 時間)	本年度の課題数は 2 月現在で 339 回であった。授業展開の都合もあったが、振り替えがうまくできないことが多かった。	B	授業展開を整理しつつ、個別に授業振り替えの方法を伝達する。また、改めて全職員に課題を減らすように呼びかけていく。
			SGHアソシエイト校の取組や言語活動の充実及びICTの活用に重点を置き、全ての教科において研究授業を行って、学校全体で学力向上に取り組む。	年間2回以上の授業研究の機会を設けるとともに、2学期に行われる授業評価を参考に、授業の改善に取り組む。	本年度は 11 回の研究授業を行うとともに、教科内での意見交換などを通して、授業改善に取り組んだ。また、SGH の取り組みをさらに進め、多くの発表等を行った。		来年度も研究授業に取り組むとともに、SGH の取り組みをさらに深化していく。
			学校の教育力向上を図るため、言語活動やICT活用を中心とした校内研修会を継続的に実施する。	具体的な研修課題を設定し、年間6回の校内研修会を実施する。	校務パソコンの入れ替えに伴い、ICT活用を深めるよう取り組み、導入予定の classi について研修した。		来年度も ICT 活用や Classi の活用についての研修を行いたい。
2	進路目標実現への取組が遅れることにより、目標が達成できない生徒がいる。高校入学当初より、個々の進路意識を高めるとともに、自律的な学習習慣の確立と個人の成長を支える生徒集団育成に努めることを目標とする。	進路希望を実現するために必要な学力と意欲を育成しているか。また、それを支える生徒集団を育成しているか。有効な取組の分析を行い進路指導システムの改善を行えたか。	総合的な学習の時間と連携を図り、進路LHRと進路別説明会の充実を努める。	進路指導計画に基づいた進路LHR3回や進路別説明会2回を計画的に実施する。	学期ごとの進路LHRを計画的に実施。分野別説明会も充実したものとなった。	B	進路 LHR の回数を学期に 2 回実施し生徒各々の進路意識をより向上させたい。
			生徒、担任、保護者、進路指導部、学年団等との連携を密接にし進路ガイダンスに係る個人面接の充実を努める。	生徒の学力や志望を学年で共有するため模試成績分析会を3学年は5回、1・2学年は3回行い、個人面接は5回以上実施する。	各学年成績分析会を実施し、それらを踏まえて継続的に担任が個人面談を行った。学年のアセンブリーなどにも生かされていた。		成績分析会の内容をより研究したい。成績以外の要素も含めてより総合的なものになるようにしたい。
			外部人材による講義や見学会等の機会を設け、個々の進路目標の具体化を図る。	社会人講師の進路講話、大学教授の模擬授業、大学見学会などを実施する。	12講座の大学出前講義、21名の社会人講師講話、大学見学会(101名参加)実施。夢ナビライブ参加。		大学見学会の規模を縮小し、オープンキャンパスへの参加を強く呼びかける工夫をしたい。
3	少数であるが依然として制服・頭髪、自転車マナー、自己の所有物の管理、携帯電話の使用について問題のある生徒が見受けられることから、校則の遵守の徹底や社会規律習得の指導に努める。	豊かな人間性育成の観点から校則の遵守や規律ある学校生活を行うよう適切な助言・指導が行えているか。交通マナー等社会規律の習得の機会を設けているか。	学校全体で高校生としてふさわしい制服・頭髪等の重点的な指導項目の具体を提示し指導の徹底を図る。	指導についての共通認識のもと学年アセンブリを学期毎に実施し、日常的には学級担任・教科担任中心に指導を行う。	概ね改善傾向ではあるが、特定の生徒が同様の指導を受けている。携帯電話等のマナーについても職員の共通認識が必要である。	B	節度ある毅然とした態度で社会に通用するマナー・ルールを指導していきたい。
			登校・街頭指導、外部講師の講習会等を計画的に行い、社会規律遵守やマナーの向上指導を強化する。	登校指導を毎年、街頭指導を年間3回実施する。ドライバーズセミナー等の講習会や専門家による講義を実施する。	年間を通じて自転車施錠指導を青少年センターと合同で指導。施錠率が上がり校内での自転車盗難は無くなった。		交通マナー等、指導が必要な生徒もおり今後も注意喚起を行う。
4	生徒会執行部を中心に生徒が自主的・主体的に生徒会行事の企画・運営を行っている。中高連携の生徒会活動の充実に向けて、中央委員会や生徒総会での議論の質の向上と活性化の指導に努める。	LHR、中央委員会、生徒総会での提案内容や議論の質が向上しているか。中学校と連携して各行事内容について検討が十分行われているか。	生徒の主体的な取組を通して達成感を体験させ生徒会活動の活性化を図る。	生徒会執行部会を定例化し、週1回実施する。LHRは学年で連帯感を強める活動とする。	議論は活発だが質は不十分。情報等の共有ができなかった。LHRは学年での取り組みが効果的に行われた。	B	議論の内容を整理し、建設的に取り組みたい。LHRは学年と連絡を密にし、効率よく充実した活動を目指す。
			中高連携して文化祭等の内容を検討し、自主的に企画・運営できる生徒の育成を図る。	中高一貫の特色を生かした体育祭の種目や文化祭の催しを検討する。	文化祭における金券販売や清掃活動を中高連携して行った。		学年間で連携できるよう学習や発表における活動内容の共有に努め、より活気のある取り組みにしたい。

学校関係者評価
平成 30年 2月 20日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> SGH 等の社会活動を通じて人格形成を行うことなど多様な取組をしていることが大事である。中高は大事な時期なので、人間性を相乗的に高める取組を続けてほしい。 生徒はノートやワークシートを大変きれいに書くなど授業をきちんと受けている。 理科の実験を見たが、マッチがうまく擦れない生徒が案外いた。小学校からその傾向がある。生活の基本的な技能など大事なことだと思うので、指導に留意してほしい。 社会人として生きる力を身に付けさせていると思う。地域から日本、世界へと視点を広げることは大事である。中高一貫教育を生かしてソーシャルスキルを育ててほしい。 生徒が出した結果を受け止め、次の手立てを考えてほしい。 授業は目的を持って勉強している雰囲気がある。様々な生徒がいるので、好きなことを伸ばしてやってほしい。